



早朝じゃんけんで青少年の健全育成を進める

### 佐野 繁利さん 宇東川3 (46歳)

一月には、静岡県積善会から表彰され、早朝じゃんけんにますます力が入ってきた佐野さんです。



「おはよう、ジャンケンポン。」毎朝、原田小学校周辺では、子供たちの元気な声がこだまします。じゃんけんの相手をするのは佐野さん。子供たちからは「佐野のおじさん」と呼ばれています。PTAやサッカー少年団の活動を通じて「青少年の健全育成は子

供と交流することから」と考えた佐野さんは、昭和五十七年、一人で街頭に立ち、朝の声かけ運動を始めました。

その後、活動に共鳴した有志で「BUM21 (Bring Up Mind 21世紀に向かつて心を育てる)」というグループを結成、現在はメンバーの加藤邦弘さんと鈴木敏昭さんの二人で街頭に立っています。

「子供のためになる」とは、みずから何でもやってみよう」というのが佐野さんの持論。原田地区の子供はあいさつができるようになったといわれ、努力が実を結んでいます。

# まちか

## 我がまちを語る



### 後藤 篤美さん

西滝川町(82歳)

### 湧き水で発展

原田地区を語るとき、人と湧き水のかかわりを語らないわけにいきません。原田の湧き水は愛鷹山系と富士山系の両方で、昔は地区のいたるところで湧いていました。中央を流れる滝川は、豊かな清

流で、女衆は川ぶちでお米をといだり、洗濯をしたりして、地域交流の場ともなっていました。川の周辺には水車を利用した、米つき屋があつて、にぎわったこともありました。

その後、水田は製紙会社に変わり、滝川は汚れてしまった時期もありましたが、今は魚釣りができるほどに回復しました。湧き水の量も昔ほどではないにしろ、市内では有数な量だと思えます。

原田の人は水に恵まれて豊かな人が多かったためか、ゆったりしていておとなしいと言われます。今でもその名残はあるかもしれません。

## あの人の人こんなこと



ダンスで健康  
碓矢 一郎さん (東滝川町)

三・四年前から健康のため、週に二・三回、原田公民館でダンスを習っている碓矢一郎さん(七十八歳)。受講生の中では最年長者で、テレビでおなじみ「いかりや長介」さんのお父さんです。「ダンスはつま先を使うから、腰が曲がらず、ほけないね。麦踏みじゃあダンスはできないよ。」とユーモアもたっぷり。



鍼灸マッサージ師  
四条桂子さん(原田町)

七年前、日本にいる母を訪ねて中国からやってきた四条桂子さん。この春、念願だった鍼灸マッサージ師の資格を三年間専門学校に通学し、取得しました。日本語の修得、結婚、二人の子供の出生、専門学校での勉強と来日以来の足跡は、語り尽くせぬものがありました。「夢のようで本当にうれしい」と笑顔はキラリ。



絵をかくときは別人  
渡辺剛弘君(吉原中島町)

渡辺剛弘君(原田小学校六年)は世界的規模の絵画展「第十九回ユネスコジュニア展」で特賞に選ばれました。幼いころから紙と鉛筆があればおとなしく、今も「絵をかくときは別人のよう」(お母さん)という集中力を発揮します。運動会やお祭りの絵などを月に二・三枚のペースでかいています。

